

# 木祖村で樹木医学の実習を行いました。

～ 実習対象にさせていただける衰弱木があれば、当校までご相談を ～



樹木医の小山明さんや横川智津子さんから、根張りの調査方法などについて説明を受ける学生

長野県林業大学校は、県内唯一の「樹木医補資格養成機関」として、財団法人日本緑化センターに登録されています。卒業までの2年間に、森林生態学や森林土壌学、森林保護学など計21単位を取得し、卒業証明書を付して同センターに申請すれば、この「樹木医補」の資格認定が受けられます。

2年生になると、樹木医学の授業で、樹勢の衰退した原因を調べたり、土壌改良や病理部の切除等により樹勢を回復させる方法を学びますが、より実践的な「樹木医補」を養成するため、本年度から実習の時間を増やしました。

11月24日には、本校非常勤講師の横川智津子さんと日本樹木医会長野県支部の小山明支部長のご指導の下、木祖村役場の近くにあるオオヤマザクラの樹勢観察と土壌改良を行いました。実習では、根の周りを30cm程掘り起こし、堆肥を含んだ土壌に入れ替え、細菌の活動を



根を掘り起こして、その状態を確認する学生

促す稲わらを敷き詰めました。

今後も、こうした実習などを通じて、地域の大切な樹木の保全に役立ちたいと考えていますので、実習の対象にさせていただける衰弱木があれば、当校までご相談ください。

【林業大学校】 電話 0264-23-2321 FAX 0264-21-1058



横川樹木医の樹勢に関する説明を聞く学生



30cm 程度の深さまで土を掘り、根の状況を確認する。根のほとんどない場所(写真上)もあれば、密生している場所(写真左中)もあり、その違いに驚かされる。



掘り起こした土に堆肥を混ぜて土壌改良を行う。



最後に細菌の活動を促す稲わらを敷き、散水。